

2	団体名	(自由記述)
3	活動分野	<p>(複数選択)</p> <p>※「特定非営利活動促進法第二条別表」20項目</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健、医療又は福祉の増進を図る活動 2. 社会教育の推進を図る活動 3. まちづくりの推進を図る活動 4. 観光の振興を図る活動 5. 農山漁村又は中山間地域の振興を図る活動 6. 学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動 7. 環境の保全を図る活動 8. 災害救援活動 9. 地域安全活動 10. 人権の擁護又は平和の推進を図る活動 11. 国際協力の活動 12. 男女共同参画社会の形成の促進を図る活動 13. 子どもの健全育成を図る活動 14. 情報化社会の発展を図る活動 15. 科学技術の振興を図る活動 16. 経済活動の活性化を図る活動 17. 職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動 18. 消費者の保護を図る活動 19. 前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動 20. 前各号に掲げる活動に準ずる活動として都道府県又は指定都市の条例で定める活動 <p>その他 ()</p>
4	直近年度の財政規模	<p>(単一選択)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 100万円未満 2. 100万円以上-300万円未満 3. 300万円以上-500万円未満 4. 500万円以上-1,000万円未満 5. 1,000万円以上-3,000万円未満 6. 3,000万円以上-5,000万円未満 7. 5,000万円以上-1億円未満 21. 1億円以上
5	活動対象エリア	<p>(単一選択)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 単一市区町村域 2. 複数市区町村域 3. 単一都道府県域 4. 複数都道府県域 5. 全国域 8. 国際

6	<p>本アンケート調査の結果等をもとに、ヒアリング等の現地調査へのご協力を依頼する場合がございます。現地調査へご協力いただける場合には、「可」と記載してください</p>	<p>可・否</p> <p>※「協力可能」と回答の場合、担当者・連絡先を記入</p> <p>担当者名 ()</p> <p>1. 連絡先メールアドレス ()</p>
---	--	---

【「つなぎ」の役割を果たす「中間支援機能」の効果について】

NO	設問	回答方法・選択肢
7	<p>他団体等（※）と連携をした取り組みの経験はありますか</p> <p>※以下のような団体・個人のことを指します。 同分野の非営利組織 他分野の非営利組織 行政 企業 組合 専門家・専門家組織 研究機関 学校等教育機関 社会福祉協議会 NPO支援センター 自治会など地縁組織 民生委員・児童委員 など</p>	<p>・ある → 8へ</p> <p>・ない → 回答終了</p>
8	<p>他団体等との連携で「（表）中間支援機能」に示す役割を担った団体や個人はいましたか</p>	<p>1. いた → A-1, A-2の設問へ</p> <p>2. いなかった → Bの設問へ</p>

【A-1】 「（表）中間支援機能」に示す役割を担った団体や個人と連携した取組みについてお伺いします。

NO	設問	回答方法・選択肢		
9	取組みの中で「（表）中間支援機能」に示す役割を担った団体や個人と、その役割について、あてはまる組み合わせをすべて選択してください。		コーディネート	ネットワーク
		非営利組織（任意団体含む）	。（記入例）	
		行政		
		企業		
		学校等教育機関		
		社会福祉協議会		
		NPO支援センター		
		自治会など地縁組織		
		その他		

10	<p>「(表) 中間支援機能」に示す役割を担った団体や個人と連携することで実現したことがあれば、すべて選択してください。</p>	<p>(複数選択可)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. これまで連携する機会がなかった組織と連携が生まれた 2. 自団体では補えない業務を担える組織との連携が生まれ、取組みの効率化ができた 3. これまでアクセスできていなかった支援対象者へのアクセスが確保でき、支援対象の数や属性の拡大が実現した 4. 他組織と連携することにより自団体のみではできない支援手法や課題解決手法の実施が可能になった 5. 自団体だけでは確保できなかった資源(人材・資金・活動場所等)が得られた 6. 支援活動や課題解決のための取組みの実施頻度を増やすことができた 7. 他組織とのネットワークが拡大し、自団体にはなかった知見や情報が得られるようになった 8. 他組織とのネットワークが拡大し、他組織との交流機会が生まれた 9. 事業計画や事業評価の知見を得て、自団体の人材育成や事業立案/運営能力の向上に繋がった 10. 取組みの成果をまとめ、自団体の成果を対外的に発信することができた 11. 上記では特になし
11	<p>上記以外で、「(表) 中間支援機能」に示す役割を担った団体や個人と連携することで生まれた効果や実現できたことがあればお教えください。</p>	<p>(自由記述)</p>
12	<p>これまでにいくつの他団体等(※)と連携しましたか。おおよその連携した団体の数を記入してください。</p> <p>※以下のような団体・個人のことを指します。 同分野の非営利組織 他分野の非営利組織 行政 企業 組合 専門家・専門家組織 研究機関 学校等教育機関 社会福祉協議会</p>	<p>(自由記述)</p>

	NPO支援センター 自治会など地縁組織 民生委員・児童委員 など	
13	これまでに連携した他 団体等として当てはま るものをすべて選択し てください。	(複数選択可) 1. 非営利組織 (任意団体含む) 2. 行政 3. 企業 4. 学校等教育機関 5. 社会福祉協議会 6. NPO支援センター 7. 自治会など地縁組織 8. その他 ()

【A-2】 他団体等との連携した取組みについてお伺いします。

14	他団体等(※)との連 携した取組みで、 「(表) 中間支援機 能」に示す役割を担っ た団体や個人はいくつ ありましたか。 複数の取組みがある場 合は、特定の1つの取組 みについて教えてください。 ※以下のような団体・個人の ことを指します。 同分野の非営利組織 他分野の非営利組織 行政 企業 組合 専門家・専門家組織 研究機関 学校等教育機関 社会福祉協議会 NPO支援センター 自治会など地縁組織 民生委員・児童委員 など	(単一選択) 1. 1 2. 2 3. 3 4. 4以上
----	--	--

15	<p>上記で回答した取組みで、実現したことがあれば、すべて選択してください。</p>	<p>(複数選択可)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. これまで連携する機会がなかった組織と<u>連携が生まれた</u> 2. 自団体では補えない業務を担える組織との連携が生まれ、<u>取組みの効率化</u>ができた 3. これまでアクセスできていなかった支援対象者へのアクセスが確保でき、<u>支援対象の数や属性の拡大</u>が実現した 4. 他組織と連携することにより自団体のみではできない<u>支援手法や課題解決手法の実施</u>が可能になった 5. 自団体だけでは確保できなかった<u>資源（人材・資金・活動場所等）</u>が得られた 6. 支援活動や課題解決のための取組みの<u>実施頻度</u>を増やすことができた 7. 他組織とのネットワークが拡大し、自団体にはなかった<u>知見や情報</u>が得られるようになった 8. 他組織とのネットワークが拡大し、他組織との<u>交流機会</u>が生まれた 9. 事業計画や事業評価の手法や知見を得て、自団体の<u>人材育成や事業立案/運営能力の向上</u>に繋がった 10. 取組みの成果をまとめ、自団体の成果を<u>対外的に発信</u>することができた 11. 上記では特になし
16	<p>上記以外で、その取組みで生まれた効果や実現できたことがあればお教えてください。</p>	<p>(自由記述)</p>

【B】他団体等と連携した取組みについてお伺いします

NO	設問	回答方法・選択肢
9	<p>これまでにいくつの他団体等（※）と連携しましたか。おおよその連携した団体の数を記入してください。</p> <p>※以下のような団体・個人のことを指します。 同分野の非営利組織 他分野の非営利組織 行政 企業 組合 専門家・専門家組織 研究機関 学校等教育機関 社会福祉協議会 NPO支援センター 自治会など地縁組織 民生委員・児童委員 など</p>	<p>（自由記述）</p>
10	<p>これまでに連携した他団体等として当てはまるものをすべて選択してください。</p>	<p>（複数選択可）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 非営利組織（任意団体含む） 2. 行政 3. 企業 4. 学校等教育機関 5. 社会福祉協議会 6. NPO支援センター 7. 自治会など地縁組織 8. その他（ ）

11	自団体以外の他団体等と連携することで実現したことがあれば、すべて選択してください。	<p>(複数選択可)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. これまで連携する機会がなかった組織と<u>連携が生まれた</u> 2. 自団体では補えない業務を担える組織との連携が生まれ、<u>取組みの効率化</u>ができた 3. これまでアクセスできていなかった支援対象者へのアクセスが確保でき、<u>支援対象の数や属性の拡大</u>が実現した 4. 他組織と連携することにより自団体のみではできない<u>支援手法や課題解決手法の実施</u>が可能になった 5. 自団体だけでは確保できなかった<u>資源（人材・資金・活動場所等）</u>が得られた 6. 支援活動や課題解決のための取組みの<u>実施頻度を増やす</u>ことができた 7. 他組織とのネットワークが拡大し、自団体にはなかった<u>知見や情報</u>が得られるようになった 8. 他組織とのネットワークが拡大し、他組織との<u>交流機会</u>が生まれた 9. 事業計画や事業評価の手法や知見を得て、自団体の<u>人材育成や事業立案/運営能力の向上</u>に繋がった 10. 取組みの成果をまとめ、自団体の成果を<u>対外的に発信</u>することができた 11. 上記には特になし
12	上記以外で、他団体等と連携することで生まれた効果や実現できたことがあればお教えてください。	(自由記述)

■問い合わせ先

孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム事務局

(一般社団法人RCF内)

E-mail : kodoku.koritsu.jimukyoku@rcf.co.jp